

藤女子大学 図書館 だより



Fuji Women's
University Library

CONTENTS

1. 絵本の力 木村 晶子
3. 新規データベース Literature Online 利用案内
4. Big Bubble (ビッグバブル) 伊藤 明美
5. 中学生の大学図書館体験
5. 展示紹介 学生による企画展示
6. 購入希望 オンライン化のお知らせ
7. 図書館委員会からのお知らせ
7. 大学図書館ランキング (週刊朝日編) 2012年版の結果から
7. 人事異動のお知らせ
8. 図書館員のオススメ本 第11回

絵本の力

人間生活学科 木村 晶子

最近、絵本を手にとることが多くなった。それは、柳田邦男氏の『砂漠でみつけた一冊の絵本』という本の影響である。この本の中で柳田氏は、「心の砂漠にうおいを与えるおとなにすすめる絵本」や、「言葉と心の危機の時代にすすめる絵本」を多数紹介している。

その中には『100万回生きたねこ』や『あらしのよるに』『木を植えた男』など私も読んだことのある作品も含まれているが、『アンジュール・ある犬の物語』『わかってほしい』『はくちょう』など初めて知る作品のほうが多く、改めて絵本の世界を見直す機会を与えられた。さらにこの著書には、絵本によって立ち直るきっかけをつかんだとか、「うつ」から解放されたなどの体験談や、絵本を通して人々に輪が広がり、地域や家庭内のコミュニケーションが良くなって人間関係にうおいがもたらされたというような感動的エピソードも盛り込まれている。このような絵本にまつわる話を読んで、大きな感動を覚え、心の渇きにおいしい水を補給したような感じがした。

柳田氏が「おとなこそ絵本を」というキャンペーンを行ってきたという理由がよく理解できたが、実は、それは柳田氏自身の「息子の突然死」という辛い体験から生まれてきたのである。彼は息子さんの死を受け入れられず、全く気力を失って呆然と日々を過ごしていたが、そんなとき彼を立ち直らせてくれたのは絵本だったのである。柳田氏はそのとき味わった感触を、「まるで荒寥たる砂漠をさ迷うなかで、突然緑にかこまれたオアシスに出会った」ようだったと述べている。それ以来、彼は絵本をむさぼるように読み始め、絵本が人間のやさしさ、すばらしさ、残酷さ、喜びと悲しみ、生と死などについていかに平易にしかも密度濃く表現しているかを再発見することとなったという。こうして、『砂漠でみつけた一冊の絵本』という書物が生まれることとなったのである。

この本の中には感動的な話がたくさんあるが、その中でも特に印象に残ったところを挙げてみよう。一つは、柳田氏が『フランダースの犬』の最後の場面で発したネルロ少年の最後のことばの



No.82
2011.10

意味について考察している箇所である。ネルロ少年は、見たくも見ることのできなかつたルーベンスの絵を、死の間に奇跡的に垣間見ることができたとき、「ああ、神様、これで、じゅうぶんでございます。」と言う。息子の死という事態を経験する前まで柳田氏がこのことばから感じ取っていたのは、「たった15歳で死を迎えたネルロ少年はなんとあわれで、不幸ばかりのなんとかわいそうな人生だろう」というものであった。しかし、息子の死後読み返したときに、自分の息子とネルロ少年が重なりあって、このことばを「自分の人生への納得」ととらえたという。「これで、じゅうぶんでございます。」という少年のことばは、自分の人生とその終結の肯定であり、最後の涙はよるこびの涙であったに違いないというのである。私もネルロ少年はなんとかわいそうな生涯を送ったのだらうという感傷的な思いであったので、柳田氏のこの解釈には心洗われる思いがし、なにかしら深く腑に落ちたという思いに到ることができた。確かに、「これで、じゅうぶんでございます。」ということばは、読み込んでゆくとけて不幸を嘆きながら人生を終えるということではない。「たとえ短い人生であらうとも納得のゆく人生であった」、「これでよいのだ」という思いなのであろう。読み手の側にも安堵感と希望を与えてくれる。

もう一つ紹介したいエピソードは、モンゴルの民話による『スーホの白い馬』が生み出した人と人とのつながりである。それは、広島県福山市にある肢体不自由児医療施設内における出来事である。1981年のことであるが、鎌田俊三先生は授業でこの『スーホの白い馬』を取り上げ、生徒たちに感想を書かせた。すると、生徒たちの反応はすばらしく、町の文化祭に参加して、この物語を影絵芝居にして演じることにしたのである。こうして、手足も不自由であり、せりふを覚えて声を出すのも大変な状況でありながら、鎌田先生が脚本を書き、テーマソングや挿入歌も作詞作曲してすべて手作りで取り組んだのであった。

いよいよ本番になり、せりふはたどたどしく、やっとの思いで影絵を支えていたが、その懸命さやがんばりに会場からはやがてすすり泣きさえ聞こえていたという。劇が終わると、拍手はいつまでもなりやまず、子どもたちは最後までやり遂げた喜びでいっぱいになっていた。まだ当時は、ノーマライゼーションという考え方は普及しておらず、差別感がある中、一冊の絵本が身体の不自由な子どもたちに生きがいを与えたのである。そして、一番喜んでいた脳性マヒのやっちゃんという男の子は、いつかモンゴルに行ってみたいという願いを先生に告げ、先生はいつか必ずその願いを果たすことを約束したのであった。しかし、やっちゃんは事故で亡くなり、望みは叶えられなかった。それでも鎌田先生は亡くなった生徒の写真を胸に一人でモンゴルに赴き、やっちゃんが聴きたがっていた馬頭琴の演奏をついに聴くことができたのである。しかし、話はそれで終わらない。鎌田先生とやっちゃんの話聞いたモンゴルの馬頭琴の演奏家であるツェレンドルジ氏とその息子さんがいつか日本で

演奏会をすることを約束してくれたのである。日本に帰ってきた鎌田先生はその計画を実現するため奔走し、2002年にとうとうその夢は現実となったのである。

このエピソードからもわかるように、絵本がもたらす力とは本当に不思議である。柳田氏に息子の死を受容させ、それを乗り越えて、逆にさまざまな困難に直面する人々に生きる希望をもたらすための活動に向かわせたのは絵本である。また、身体の不自由な子どもたちに差別を乗り越えて喜びを味わって生きることを伝えたのも絵本である。

もちろん、読む人の体験やとらえ方は千差万別であり、同じ結果になるとはいえないが、少なくとも絵本が人の心の成長や心の持ち方・向け方には多大な影響をもたらすことは否めない。それだけに柳田氏が言うように、砂漠のような現代社会に生き、悩み疲れているおとなこそ絵本を読む必要があるのではないだろうか。絵本を読んで幼かった頃へのノスタルジーにひたるのことも良いであろう。想像力を養うことによって生きるエネルギーをあらたにすることもあるであろう。絵本は心を耕し、新しい世界を発見させてくれる。

「絵本とは魂の言葉であり魂のコミュニケーションだ」と柳田氏は述べる。『砂漠でみつけた一冊の絵本』を通じて、新たに絵本のすばらしさを再認識することができたように思う。

紹介された本の所蔵情報

本文1頁

★『砂漠でみつけた一冊の絵本』019 / Y53 (両館に所蔵)

★『100万回生きたねこ』376.19 / Sa66

★『あらしのよるに』376.19 / Ki39 / 1

★『木を植えた男』376.19 / G47

★『アンジュール・ある犬の物語』376.19 / V75

★『わかってほしい』376.19 / Mo25

★『はくちょう』376.19 / U14

★『フランダースの犬』933.8 / O91 本館 909.8 / Sh96 / 7

本文2頁

★『スーホの白い馬』376.19 / O69

★は花川館所蔵です。



■新規データベース Literature Online 利用案内■

2011年4月より、英語・英米文学研究に有用なデータベースLiterature Online、略してLIONが導入されました。LIONは、35万点以上の文学作品のフルテキストに加え、文学専門雑誌の全文記事、作家情報、文献情報、レファレンス情報を収録する英米文学において最も包括的で権威ある総合データベースです。

アカウントを取得（無料）することにより、自分の研究のための文献リストを作成したり、新着情報をメールで受け取ることも可能です。

英米文学、英語学に関する情報を収集するならLiterature Onlineを活用しよう!

●アクセス方法

学内から藤女子大学図書館ホームページ (<http://library.fujijoshi.ac.jp/>) にアクセス。

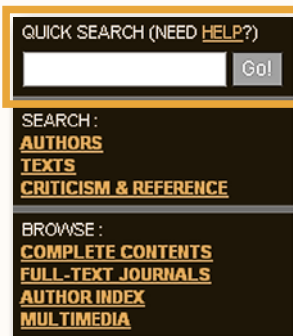


Literature Online

「図書・文献を探す」中の紫のアイコンをクリックするだけ。ID・パスワード入力は必要ありません!



●検索はクイックサーチが便利



QUICK SEARCH (NEED HELP?)

Go!

左側メニューの一番上にあるキーワードボックスに調べたいことを英語で入力して、GO!ボタンをクリックしましょう。
例) Dickens, Charles

そのキーワードで全収録コンテンツを検索します。クイックサーチでは詳しい検索条件は指定できません。

その他、「AUTHORS (著者検索)」「TEXTS (文学作品本文検索)」「CRITICISM & REFERENCE (批評・論文検索)」などの目的に合わせた検索メニューがあるほか、指定した条件で一覧を見ることが出来るブラウズメニューもあります。詳細な利用方法はカウンターまでお問い合わせください。また、本館で利用案内も配布しています。

Big Bubble (ビッグバブル)

文化総合学科 伊藤 明美

2010年度はアメリカ西海岸に位置するサンフランシスコで在外研究の機会をいただいた。

周辺一帯は「ベイエリア」と呼ばれ、700万人超が暮らしている。ここはカリフォルニア州北部の政治、経済の要であるが、サンフランシスコ(以下SF)はその中心都市でもあり、また、その魅力的な景観や文化レベルの高さから、多くの富豪たちが20億円以上の費用をかけて本宅や別荘を構える土地柄だ。建ちならぶビクトリア様式の美しい家々、海と霧、坂道をのぼるケーブルカー、フッシャーマンズワープなど見どころも多く、街は連日のように観光客でにぎわっている。また、全米最大規模のチャイナタウンを抱えていることもあってアジア系の人口比が3割強もあり、日本人にとっては「座り」のよい街である。私が籍を置いていたサンフランシスコ州立大学でも、総数3万人強という学生の人種・民族構成は、白人37%、アジア系22%、フィリピン系10%、ヒスパニック系18%と、いかにもSFらしい。

さて、その大学図書館といえば、、、、。

実は、それは建て替え工事のまっ最中であつた。仮設の図書館はキャンパスの北のはずれに設置され、しかもそこに配架されているのは最新の論文雑誌や辞書、事典のみ。図書館通いを楽しみにしていたのに、本当に間が抜けたことであつた。まあ、それでも、図書館はそれなりに利用させてもらったので、以下、その利用を通して知りえた情報をレポートしてみたい。

まずは、Big Bubbleと呼ばれる仮設図書館である。名前の通り、それは巨大な泡の形をしたドーム型のテントハウスだが、イベント用のパビリオンや移動公演の舞台となるよう



建築のすすむ図書館(2011年1月)

な「建物」を想像してもらえるとよい。内部には100台余りのコンピューターと300人前後が収容できる机や椅子、ソファが置かれていて、(ここが重要なのだが)いつでも半分程度は埋まっている。毎日24時間体制で開館しているので、定期試験が近くなるとここで徹夜をする学生も多く、「朝早くまでにぎわう」そうである。また、図書館ではパソコンが実に有効に利用されていて、たとえば、論文検索の方法や研究テーマの設定などで疑問がある場合、チャット機能を使えば、学生は自宅にいてもリアルタイムに司書と相談のやりとりができる。むろん、本の貸出申請もパソコンで行う。

余談になるが、SFでは日本にいるとき以上にインターネットを利用した。たとえば、絶対に時間通りに来てくれない市営バスは、その償いの意味もあつてか最寄りの停留所にいつバスが到着するのかわかるサービスを提供していた。私の住んでいた家はバス停から20秒程度のところだったので、忘れ物確認と5か所の施錠(自室2か所、家の玄関3か所)をすませてタイミングよくバスに乗るためには、パソコン画面に「あと2分」と表示が出たところで部屋を出るとちょうど良かった。札幌でもバス会社がこうしたサービスを提供してくれたら車を放棄しても良いと、「その時は」本気で思ったことである。



Big Bubble 内部

さて、図書館に話を戻すと、大学が発行する

学生証(教職員身分証明証)はそのまま図書館カードにもなっていて、その上、館内の複写機利用のためにおサイフ機能までついていたのは大変便利なことだつた。アメリカでは不要な現金は持ち歩きたくなかつたし、所持するカード類も少ない方が良いに決まっている。また、女性にとって嬉しいのは、夜10時以降に帰宅する場合はエスコートサービスが提供されていること。どこの都市でも同じだが、深夜と早朝の一人歩きは相当に怖い。ただ、それは強盗や殺人が日常化したアメリカの大都会では男子学生にとっても同様で、このサービスに対しては学生たちから対象の拡大を求める要請があつたと聞いた。人権意識の高いSFのことなので、いずれこのサービスは男女ともに利用できるようになることだろう。

藤女子大学図書館も学生向けのガイダンスが充実するなど、年々サービスが向上している。最近では国籍不明の顔をした不思議な「きしんさん」まで登場し、学生たちの図書館に対する親近感が高まっているらしい。海外の大学図書館情報がどの程度参考になるかわからないが、アマチュアレポーターによるこのエッセイが、本学図書館の利用者フレンドリーな環境作りには貢献することができれば幸いである。



ビクトリアンハウス

中学生の大学図書館体験

2011年8月24日、25日の2日間、石狩市立花川中学校3年生の2名が「職業体験学習」のため、本学の図書館にやってきました。3年生全員が、将来の進路を考える活動として、石狩市や札幌市にある事業所へ職業体験学習に行ったそうです。図書館での職業体験を終えたTさん、Aさんに、早速感想をいただきました。

【Tさんの感想】 私は職業体験の2日間、たくさんの事を学びそして驚きもたくさんありました。ひとつは館内の大きさや本の数。本は専門的な内容のものが多くて難しそうなものばかりだったけどおもしろそうなものもいくつかあり、読んでみたかったです。私がおこへ来るまで図書館は事務的な作業が中心と思っていたのですが配架などは意外にも体力を使うので図書館の仕事も大変だな、と実感しました。この2日間職業体験という貴重な体験が出来て本当に良かったです。

【Aさんの感想】 この2日間職業体験をして思い出に残った事は、1番は本の配架作業です。慣れるまでは大変でしたが、慣れて来ると楽しかったです。その他にも、本の貸し出し、返却などの仕事も実際に体験させていただいて、とても嬉しかったです。仕事をする事は大変だけれど、作業を終えた時の達成感は、とても思い出に残っています。この2日間たくさんの本に囲まれて、とても楽しかったです。これからは今以上に本を大切にしようと思いました。

展示紹介

学生による企画展示



2011年春より、花川館でも図書館の本を紹介して下さる方を募集しました。応募者の紹介する本とそのポップをぜひご覧ください。

展示テーマ「美しく輝きたい女性に贈る本」

担当 人間生活学科3年 大河原さん

私は、高校生の頃、いつも自宅から図書館へ通う、いわゆる図書館っ子でした。今回展示させて頂いた本は、どれも図書館で見つけ、たまたま手に取って読んでみて面白いと思ったものです。どの本も女性が主人公で、何か使命のようなものを持ち、様々な困難と直面します。ジャンルは歴史小説に近いファンタジー作品を多く集めました。歴史と照らし合わせながら読

んでみると、遥か昔その世界があったかのではないかとわくわくするはずです。また、本に関するメディア情報や、展示の本をお勧めするポップなども置いてありますので、これらを目にする機会があれば、一度手に取ってみたい、眺めてみてください。

- * 山田詠美『晩年の子供』913.6 / Y19 (両館に所蔵)
- * 角野栄子『魔女の宅急便』913.6 / Ka14
- * 上橋菜穂子『狐笛のかなた』913.6 / U36
- * 有川浩『図書館戦争』913.6 / A71
- * 荻原規子『はじめてのお使い』913.6 / O25 / 1
- 池上永一『テンペスト 若夏の巻』913.6 / I33 / 1
- 池上永一『テンペスト 花風の巻』913.6 / I33 / 2
- 氷室冴子『なんて素敵にジャパネスク』1-8巻 913.6 / H59
- * 雑誌『ダ・ヴィンチ』16巻3号 2009.3 (両館に所蔵)

*は花川館所蔵です。



■購入希望 オンライン化のお知らせ■

2011年6月より、購入希望をオンラインで行うことが可能となりました。従来通り、専用用紙に必要事項を記入して希望を出すことも可能ですが、自宅に居ながらにして必要な資料をリクエストすることができるようになりました。
* オンラインシステムは本学学生対象となっております。

図書館にない本を入手したいときは、購入希望を出してみよう!

●アクセス方法

藤女子大学図書館のホームページ (<http://library.fujijoshi.ac.jp/>) にアクセス。

トップページにある蔵書検索をクリックしましょう。

新規購入希望をクリック。

学生証裏の、バーコードの下にある10桁の数字を入力してください。上下段同じものを入力してください。

購入希望ログイン画面

新規購入希望申し込み画面

●必ず連絡メールアドレス欄を確認してください。購入希望を検討し、その結果をメール送信します。携帯電話などの、よく利用するメールアドレスに変更すると便利です。その場合は、利用問い合わせをクリックしてください。

赤文字の(必須)事項に入力してください。
* 分からない項目については「不明」と入力してください。

「する」にチェックを入れておきましょう。貸出できるようになると、メール連絡がきます。

新規購入希望を申し込む

このボタンをクリックすると申込み完了です。

図書館委員会からのお知らせ

・2011年度図書館委員

図書館長

内田 博 (人間生活学部・人間生活学科)

委員・文学部

平松 哲司 (英語文化学科)

種田和加子 (日本語・日本文学科)

榎瀧 弘市 (文化総合学科)

委員・人間生活学部

木村 晶子 (人間生活学科)

知地 英征 (食物栄養学科)

小山 充道 (保育学科)



・2011年度図書館委員会として実行すべき課題

- 1) 図書館5カ年計画の4年次の活動
- 2) 大学基準協会大学評価への対応
 - ・食物栄養、医学、生化学分野の資料更新の継続
 - ・建物・什器類の経年劣化への対策
 - ・収蔵スペースの狭隘化対策
 - ・購入希望図書制度の活用 OPACからの申込
- 3) 適切な時間外開館の試行を継続するとともに新たな運営体制を検討
- 4) 学術研究コンテンツの整備・利用促進を継続
 - ・電子化対象誌の拡充
- 5) 学習基本図書の整備と継続
 - ・指定図書、シラバス掲載図書、講義関連図書等の整備
- 6) 教員と連携した利用者教育の促進
- 7) シュマウス文庫の整理 選書規定の検討
- 8) 学生と協働した活動
 - ・企画展示の実施
- 9) 図書館情報システム更新準備

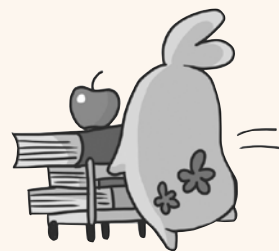
大学図書館ランキング (週刊朝日編) 2012年版の結果から

学生の年間平均貸出冊数 全国第2位!

朝日新聞出版「大学ランキング」2012年版の大学図書館ランキングによると、本学図書館は学生1人あたりの平均貸出冊数が総合上位105校中**全国2位**でした。また、総合順位も昨年度の26位から17位にアップしました。このランキングは、朝日新聞が全国の大学図書館にアンケート調査をし、回答のあった696校についてランキング付したものです。

本学上位の秘密は、シラバス掲載図書や講義関連図書を中心とした選書体制や図書はすべて集中配架され、全面開架(すべて手にとって見られる)方式をとるなどの使いやすさが主な理由と思われます。

でも、なんといっても学生さんの好奇心のあらわれと図書館では考えています。皆さんの学生生活をより快適にする為に図書館を利用して頂ければ嬉しいです。



人事異動のお知らせ

(2011年4月1日付)

成田 並穂 (本館情報サービス係・採用)

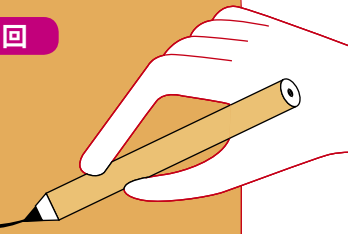


オリジナルのものを作ってみませんか？

欲しいものを探し、お金をせば手にする今。そんな今だからこそ、人とは違うものはどうでしょう。素材から探し作ってみたり、自分のお気に入りに入りちょっと手を加えてアレンジしたり…みんなと同じもいいけど、「世界にひとつ」はいかがですか？図書館には多くの「つくる」ための本がありますが、その一部を紹介します。

図書館員の オススメ本

第11回



「手作りエコバッグ」

所蔵館：花川館
請求記号：594.7 / Te95

この数年、「地球にやさしく」「ゴミの削減」などの理由から一部のお店ではレジ袋が有料化されました。エコバッグ（マイバッグ）を購入し持っている人

多いと思います。ただ、自分好みの生地じゃなかったり、ちょうどいい大きさじゃなかったり…そこで、お気に入りのエコバッグを作ってみませんか？

レジ袋タイプのエコバッグ、自転車のカゴ用エコバッグなどが紹介されています。



「かわいい手作りの革小物：簡単に作れる革の小物」

所蔵館：花川館
請求記号：594.9 / Ka93

レザークラフトは布の手芸と違ってハードルが高い感じもしますが、「縫う」だけでなく、「編む」革小物もあります。バッグは難しくても、プレスレットやヘアアクセサリは編んで作ることができます。また専用のミシンではなく、家庭用の厚い生地が縫えるミシンでのレザークラフトも注意点とともに載っています。

手縫いやミシンで作る革小物の作り方のほか、革の種類や使う道具が紹介されています。



「はじめての手製本：製本屋さんが教える本のつくりかた」

所蔵館：本館
請求記号：022 / Mi55

手作業で本をつくっている美葉堂（みすずどう）。この本も美葉堂が手で製本したものです。

手作業の製本がイラストと写真を交えて紹介されています。色々な製本の仕方（和綴じ、角背上製本、丸背上製本など）が出て

るので、本の構造を知ることができます。自分で作ってみるのは難しくても、日々手にしている本がどんな風に作られているのか知るのも楽しいと思います。



「お気に入りのとじる：やさしい製本入門」

所蔵館：本館
請求記号：022 / N71

2008年にNHKで放送していた番組「趣味悠々」のテキストです。カラー写真の説明つきなのでわかりやすく製本の方法を知ることができます。

最近はデジタルカメラで撮影すると、データとして保存するだけであまり印刷しなくなっているような気がします。紙に印刷して大切な写真や絵を1冊にまとめたり、お気に入りの本の表紙を変えてみたり…自分オリジナルの本を作ってみませんか？

■ 編集後記 ■

巻頭言に「絵本の力」と題して人間生活学科・木村晶子先生よりご寄稿いただきました。皆さんなじみのある絵本のタイトルが記事の中に出てきたことと思います。昔読んだ絵本を読み返すと、当時と受け取り方が違う自分に驚くことがあります。絵本に限らず、良質な本は何回でも新たな一面に出会えるはず。柳田邦男氏の『砂漠でみつけた一冊の絵本』は両館に所蔵されていますので、興味があったら読んでみてくださいね。きっとすてきな絵本の世界が広がりますよ。

また昨年度のサンフランシスコでの体験について「Big Bubble（ビッグバブル）」と題して文化総合学科・伊藤明美先生よりご寄稿いただきました。記事中のバスのエピソードが面白いですね。“札幌にそんなサービスがあったらすごく便利なのに…（特に冬場）”とバス通勤の身としては切実に思いました。紹介されているサンフランシスコ州立大学の図書館サービスはどれも便利なものですね。貴重なレポートをどうもありがとうございました。（K）



ケータイから本が探せます！



QRコード

藤女子大学 図書館だより 第82号 2011.10

発行者 藤女子大学図書館

札幌市北区北16条西2丁目

TEL 011-736-5407 FAX 011-709-4770

<http://library.fujijoshi.ac.jp/>